

＼みんなで考えよう！／

オーノまちづくり

ワークショップニュース

Vol.
5



相模原市は、相模大野駅周辺地区を対象に、地域住民や事業者のみなさまが主体となって実現する「まちづくりのアイデア」を検討するため、全5回のワークショップを企画しました。

このワークショップでは、「相模大野に住む人・来た人にとって、居心地がよいまちづくり」をコンセプトに『相模大野をどのようなまちにしたいか＝まちのコンセプト』や、『どのような場所でどのような盛り上げ方ができるか＝公共空間の活用方策』など様々なアイデアを考え、まとめることを目指します。

これまでのワークショップでは、相模大野の良いところなど現状を分析して、市民が参画できる空間でやってみたいことを「参画の余白」として検討しました。そこで挙げられた内容は、「カル

チャー」、「ワーク」、「アウトドア・スポーツ」、「グルメ・マルシェ」、「子育て」の5つのテーマに分けられ、テーマごとにチームを作成。チームごとにまち歩きを実施し、チームとして一番大切にしたいこと＝「企画のタネ」を見つけ、それを基に「相模大野シビックアクションプラン」を考えました。シビックアクションプランとは、市民が自らまちを変えていくための宣言や目標、それに伴う実行計画のことを指します。

7月31日（日）の第5回ワークショップでは、ワークショップ成果発表会として「相模大野シビックアクションプラン」をついに発表！

今回のワークショップニュースでは、最終回である第5回ワークショップ（成果発表会）の様子をお届けします。

相模大野シビックアクションプラン発表

今回、ワークショップのファシリテーターである小泉瑛一さんが、体調不良により欠席になったため、代理として運営補助を行っている（株）地域計画建築研究所の山崎さんが進行を務めました。

発表に向けての資料の最終調整や、発表者によるリハーサルのもと、各チームの「相模大野シビックアクションプラン」を発表です！

発表会には、大野南地区まちづくり会議の方や一般傍聴の方などが、観覧にきていました。

ファシリテーターの小泉さんは、各チームの発表スライドを事前に見て各チームへコメントを用意くださいました。いただいたコメントは会場で読み上げ、各チームで共有しました。



カルチャー

学生の発想のタネが実現でき、安心して活躍できる居場所があること。

わたしたちは相模大野を2030年までに学生を中心に文化芸術のイベント等、様々なカルチャーがあふれ活気のあるまちづくり構想が実現できる街にします！

カルチャーチームは、学生が情報交換や情報発信できる居場所をつくり、その居場所を拠点に様々なチャレンジが出来るまちにすることを宣言しました。

はじめの一歩として、「居場所」+「学生と

地域のネットワーク」をつくり、学生と地域が連携して、学生の作品発表やイベント等の取組を行うことで、学生のチャレンジできる場を作り、それをビジネスチャンスにも活かしたいと発表しました。



ファシリテーター小泉さんからのコメント

カルチャーの担い手として若い人たちや学生に焦点を当て、チャレンジを生み出すために「居場所」が必要だという考えに至った点が素晴らしい！

市民が地元企業や団体と連携して取り組む「ビジネス」を通して、品格があり、活気あふれる街をつくりま

わたしたちは相模大野を2030年までに相模大野に関わる若者が、起業を目指しチャレンジできる環境を整え、その情報発信により、多種多様な業種が集まり、需要が増える事により**空きテナントゼロの魅力と活気ある街**にします！

ワークチームは、学生や若者がアイデアを活かして、未来への新たなチャレンジがやすく、起業に向けた夢を実現できるまちを目指します。空きテナント等を利用した起業する「場所」に、多様な世代が集い、ビジネスの種となる会話・交流が生まれ、国内有数のビジネスチャンスがあ

るまちとして、視察が絶えず、人流が活発になる光景をイメージしました。

はじめの一歩として、企業・銀行・個人に向けて、投資を誘発する取組を働きかけ、仲間に加えたい組織や団体を具体的に挙げていました。



ワーク

ファシリテーター小泉さんからのコメント

学生や若者の起業を促し、空きテナントが減る未来像を描けているのが非常に良いと思います。地元の企業や金融機関などが若者に投資する流れを生んでいきたいですね。

アウトドア・スポーツ

スポーツを通じて、地域のコミュニティをつくりたい。

わたしたちは相模大野を2025年までに
身体も心もまちも明るく元気な大野にします！

身体が明るく元気⇒区民が健康な状態
心が明るく元気⇒ふれあいや生きがいのある状態
まちが明るく元気⇒まちが安全安心で、笑顔がある状態

アウトドア・スポーツチームは、長寿全国1位の健康寿命先進都市を目指すことを掲げました。はじめの一歩として、老若男女みんなが参加できる健康を目指したスポーツイベントを、相模大野中央公園で試行的にやってみようという企

画を立上げ、そのイベントの結果を検証して、その後の取組につなげるPDCAサイクルにより、継続的に実施できる仕組みをつくりました。

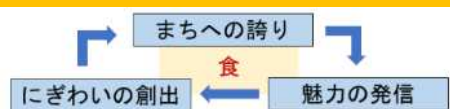


ファシリテーター小泉さんからのコメント

スポーツを通じて相模大野のまちの健康人口を増やそうという視点が良いですね。具体的な仲間のイメージがされていて、今後は市内のスポーツチームを巻き込んでみるなど、展開が楽しみです。

人々が「食」を通じて幸せを実感し、人と人とのつながりの中から新たな食文化を生み出していく。

わたしたちは相模大野を2030年までに
「食」を通じて
人々の主体的な活動が循環する街にします！



グ

マルメシエ



グルメ・マルシェチームは、「食」を通じて、イベントがある休日、いつもの休日、いつもの平日で繰り広げられるシーンを想像しました。相模大野中央公園をにぎわいの核と位置付けて、「食」のイベントを企画し、そこからさらにエリアを広げて、

駅から相模大野中央公園までが面的ににぎわうまちにしたいと話しました。はじめの一歩として、相模大野中央公園でのイベントを通じて、地域の関係者同士がコミュニケーションし、人と人がつながることで、地域の主体的な活動を広げていき、どんどんまちの魅力を発信していきたいとしています。

ファシリテーター小泉さんからのコメント

年に数回のイベントだけでなく、日常的な風景もつくり出せるのが食のコンテンツの強みですね。相模大野には魅力的な飲食店がすでにたくさんあるので、ぜひ実現したいですね！

子育て

楽しく、安心して、まちに愛着を持って子育てできる。

わたしたちは相模大野を2030年までに
まちなかにある様々な良い「場」を活かすいきいきと子育てができる街にします！



子育てチームは、小中学生のお母さんや、お孫さんがいらっしゃる方、学生の幅広い年齢層で構成され、まちなかの「場」を活かして、子どもも大人も居心地がよいまちを目指します。みどりあふれる公園で子どもが水辺で遊び、様々な生き物と触れ合っている光景や、まちなかの開かれた場で、子どもたちと、

様々な世代の人との交流、休みの日にはまちなかで子どもも大人もゆっくりと時を過ごしていて、平日は子どもを安心して預けて、働きながら子育てできる。など、子どもを中心として、日ごろ感じている想いが詰まった発表でした。はじめの一歩としては、「公園などのまちなかの空間の使い方を広げてみる」ということで、気軽に飲食できる場所や、交流づくりから取り組んでいきます。

ファシリテーター小泉さんからのコメント

保護者だけでなく、いろいろな大人の目の届く場所で子育てをみんなでサポートするのが、少子化社会のあり方です。子育て環境を整備していくのにやっとなんか十分すぎることはありません。「まちなかの空間の使い方を広げてみる」ことから、ぜひ取り組んでいってください！

ポスターセッション

各チームの「相模大野シビックアクションプラン」の発表を聞いた感想や質問など、意見交換をする場としてポスターセッションが行われました。傍聴者や参加者から、たくさんのいいね！シールやコメントの付箋が貼られました。

「イベントに参加してみたい！」や「学生が活躍し、若者の起業などでまちが賑わい、チャレンジするなら「相模大野」というまちにしたい！」という実現に期待するコメントが多くあがっていました！



そして、ワークショップは第2ステップへ・・・

これで、全5回のワークショップは終了となりますが、このワークショップでまとめた「相模大野シビックアクションプラン」は、令和4年度下半期に実施する**「みんなで盛り上げよう！オーノにぎわいワークショップ」**につなげていきます。みなさん、これからもっとまちを盛り上げていきましょう！

相模大野駅周辺では、伊勢丹相模原店の閉店など取り巻く情勢が大きく変化する中、持続可能でにぎわいのあるまちを目指した新たなまちづくりの取組が必要です。こうしたまちづくりは行政だけではなく、市民の皆様の熱い想いが不可欠です。今回のワークショップは、市民発意による新たなまちづくりのスタートとして、皆様の想いの詰まった「相模大野シビックアクションプラン」を策定していただきました。こうした想いをどう実現していくのか、地域の皆様と一緒に考えていくために、今年度後半からは、参加者の皆様に既存の都市基盤を生かしたソフト事業を実際に行っていただく新たなワークショップを実施する予定です。引き続きまちを一緒に盛り上げていきましょう。

市長 本村賢太郎



♪ファシリテーター小泉瑛一さんからのメッセージ♪



みなさんのシビックアクションプラン、最後の発表に同席できず本当に残念です。けれども、どれも充実した提案で、とても良いワークショップになりました。

シビックアクションプランの主語は「シチズン」つまり「市民」のみなさんです。ワークショップを通じて、まちの未来を変えていく可能性が見えてきたのではないのでしょうか。

ぜひみなさん自身でアクションを起こしてみてください。このワークショップは、第2ステップも企画して、これからも続いていきそうですので、またお会いできることを楽しみにしています。ここまで本当にありがとうございました！

みんなで考えよう！
オーノまちづくりワークショップニュースvol.5
発行日 2022年8月31日

発行 相模原市 南区役所地域振興課
TEL: 042-749-2135
E-mail: m-chiikisinkou@city.sagamihara.kanagawa.jp